

平成17年度病虫害発生予察 予報第5号

平成17年8月18日
長崎県病虫害防除所長

【気象（平成17年8月12日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
向こう1か月の気温、降水量、日照時間はいずれも平年並でしょう。
週別の気温は、1週目は高く、2週目、3～4週目はいずれも平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病（穂いもち）	-	少並
	紋枯病	並多	多
	トビイロウンカ （注意報第4号を継続）	並	並
	コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ類	-	並
大豆	ハスモンヨトウ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（防除情報第11号）	並	並
	輪斑病（防除情報第12号）	多	多
	ハダニ（防除情報第13号）	やや多	やや多
かんきつ	黒点病	少	少
	かいよう病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
果樹共通	カメムシ類（チャバネカメムシ、ツヤアカメムシ、クサキカメムシ）	少	少
茶	炭疽病	少	少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想

茶	チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ クワシロカイガラムシ	やや多 やや多 やや少 やや少	やや多 やや多 やや少 やや少
---	--	--------------------------	--------------------------

【普通期水稲】 ()内は平年値 (以下同じ)

1. いもち病(穂いもち)

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査(106筆)の結果、葉いもちの発生株率は0.2%(2.0%)、発生圃場率12.3%(21.2%)であった。

(2) 8月4半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生株率は1.0%(2.5%)であった。

(3) BLASTAM(葉いもち感染好適日判定モデル)によると、8月以降は感染好適条件は認められていない(表)。

表 8月以降のBLASTAM判定結果

	鱈浦	巖原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	有川	大瀬戸	長崎	島原	福江	口之津	野母崎
8/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) : 感染好適条件
 ~ : 準感染好適条件
 - : 感染好適条件なし
 ? : 判定不能

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査(106筆)の結果、発生株率は1.8%(2.6%)、発生圃場率は19.8%(27.0%)であった。

(2) 8月4半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生株率8.0%(5.5%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

3. トビイロウンカ

平成17年8月1日付け、病害虫発生予察 注意報第4号を継続

1) その後の発生状況

(1) 8月上旬の巡回調査(106筆)の結果、株当たり虫数は0.17頭(0.03

- 頭)、発生圃場率は41.5%(17.3%)であった。
 (2) 8月4半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.42頭(0.34頭)であった。

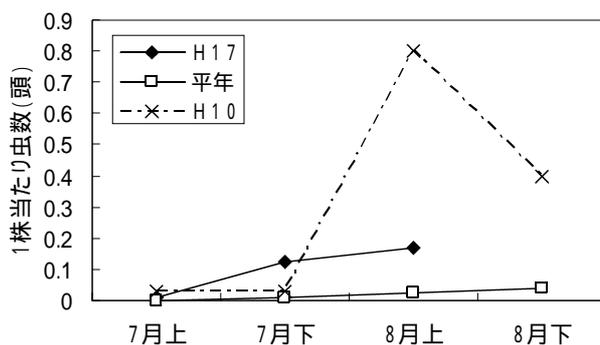


図 巡回調査における1株当たり虫数の推移

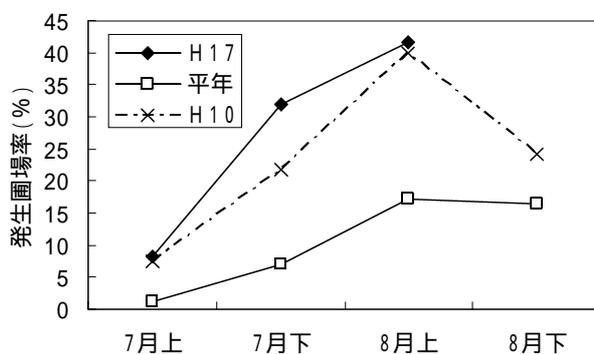


図 巡回調査における発生圃場率の推移

4. コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 8月上旬の巡回調査(106筆)の結果、食害株率は18.3%(19.7%)、発生圃場率は89.6%(80.9%)であった。
 (2) 8月4半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は28.0%(45.0%)であった。

5. 穂吸汁性カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 8月上旬の雑草地におけるすくい取り調査(29地点)の結果、10回すくい取り当たりの虫数は9.6頭(16.2頭)であった(表)。
 (2) 8月上旬の早期水稻におけるすくい取り調査(38筆)の結果、20回すくい取り当たりの虫数は0.2頭(0.3頭)、発生圃場率は15.8%(17.3%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂期以降の除草は本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。
 (2) 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含め、広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。

表 雑草地におけるすくい取り虫数の推移(8月上旬調査)

種類名	H13	H14	H15	H16	平年	H17
ホリハカメムシ	3.0	1.3	0.7	1.3	2.5	1.8

クモヘリカメムシ	1.3	1.5	0.4	0.7	1.6	0.4
シラホシカメムシ	1.2	1.5	0.7	0.9	1.4	0.4
アカシジカスミカメ	6.6	5.4	6.6	5.5	9.0	7.0
計	12.2	9.7	8.4	8.4	16.2	9.6

注) 数値は10回すくい取り当たりの虫数
 平年値はH7～16年の最大最小値を除いた平均値

【大豆】

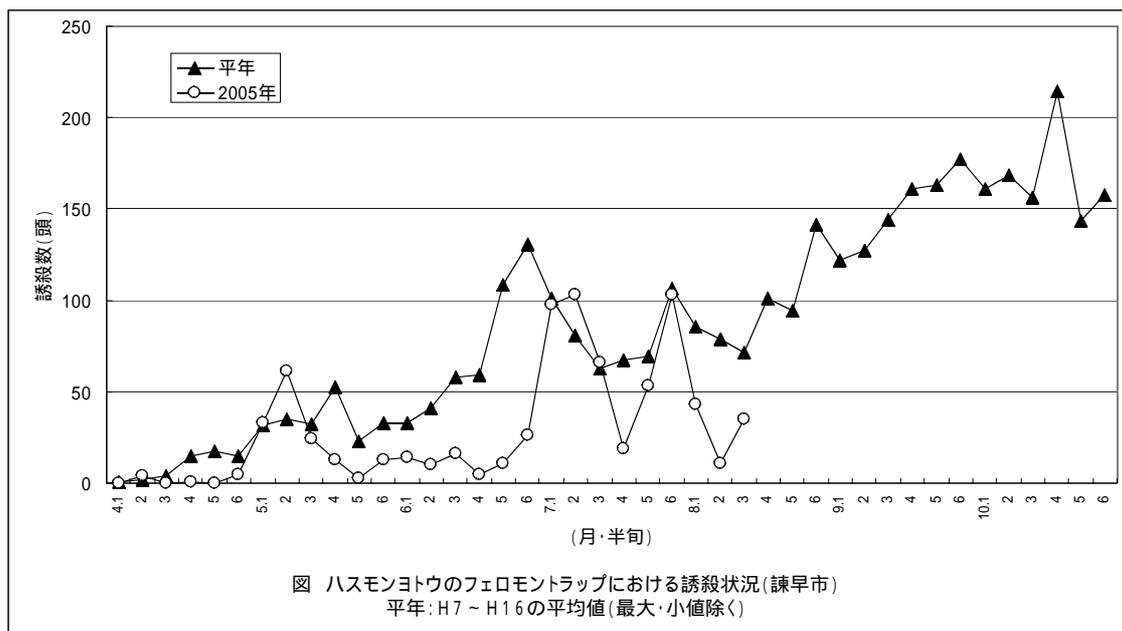
1. ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は0.9%(3.4%)、株当たり虫数は0.04頭(0.4頭)、白変葉発生圃場率は50%(36.5%)であった。
- (2) 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は22.0%(0.9%)、株当たり虫数は1.0頭(0.03頭)であった。
- (3) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年よりやや少ない(図)。



【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.4%(0.2%)、発生圃場率9%(4%)であった。

2. 炭疽病

平成17年8月17日付け、病虫害発生予察 **防除情報第11号**による。

3. 輪斑病

平成17年8月17日付け、病虫害発生予察 **防除情報第12号**による。

4. ハダニ類

平成17年8月17日付け、病虫害発生予察 **防除情報第13号**による。

【かんきつ】

1. 黒点病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生果率は0.4%(10.5%)、発生圃場率は7.7%(49.0%)であった。

2. かいよう病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生病葉率は1.5%(0.4%)、発生圃場率は46.2%(12.4%)、発生果率0.0%(0.3%)、発生圃場率は7.7%(5.7%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

(2) 耐病性が弱い品種が植栽されている園や発生が目立つ園では、台風の接近が予想される場合できる限り襲来前の薬剤散布を行う。

2. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は9.6%(14.4%)、発生圃場率は51.3%(56.0%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場における黄色粘着トラップ調査の結果、誘殺量は7月2半旬以降少なかったが、8月2半旬以降増加した(図)。

(2) 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率が1.2%(1.9%)、発生圃場率が25.6%(24.4%)、果頂部の被害果率が0.8%(0.6%)、発生圃場率が7.3%(17.9%)だった。

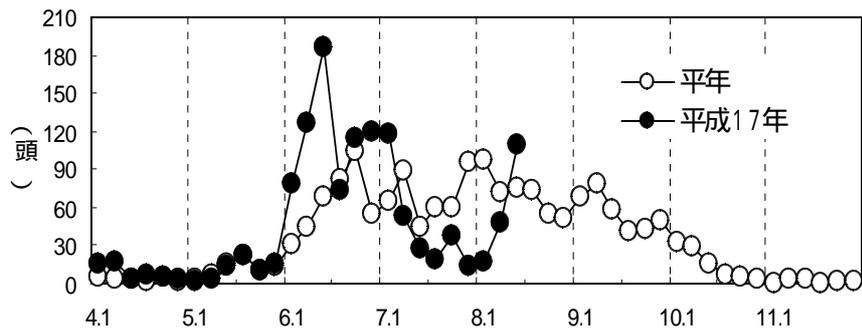


図 チャノキロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ) (月・半月)
*平年値は平成7～16年の平均

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 下表の予測発生ピーク日を中心に薬剤散布による防除を行う。
- (2) 発生園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達してから防除を行う。
- (3) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
第6世代	8/24	8/23	8/29	8/23	8/23	8/25	8/19	8/20
第7世代	9/11	9/10	9/19	9/11	9/11	9/13	9/6	9/7

注1: 発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。

注2: プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。

注3: 同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

【果樹共通】

カメムシ類(チャルネアカメムシ、ツアアカメムシ、クサキカメムシ)

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップによる誘殺量(諫早市)は平年より少なかった(図)。
- (2) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果口針鞘数調査の結果、県平均口針鞘数は0.1本/果で、果樹園への飛来の目安となる25本/果を超える時期は、9月中旬以降と予測される(平成17年8月1日付発生予察 技術情報第1号参照)。

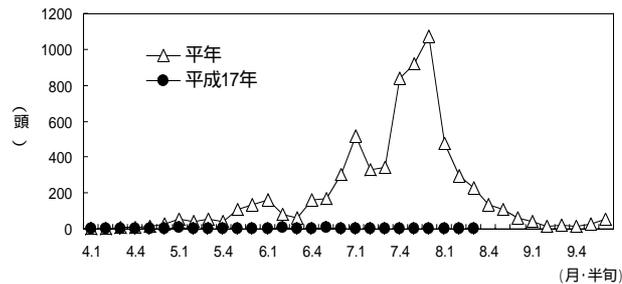


図 チャバネ・ツヤアオカミの誘殺状況(諫早・黄色コガネコール)
* 平年値は平成7～16年の平均

【茶】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たりの病葉数は0.5枚(5.3枚)発生圃場率は30.0%(67.4%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は13.4頭(16.1頭)、発生圃場率は60.0%(71.8%)であった。

3. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5×4カ所)は1.9頭(0.9頭)、発生圃場率は35.0%(35.2%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性がつきやすいので、同系統の薬剤は連用しない。

4. チャノコカクモンハマキ

1) 予報内容

発生程度 やや多

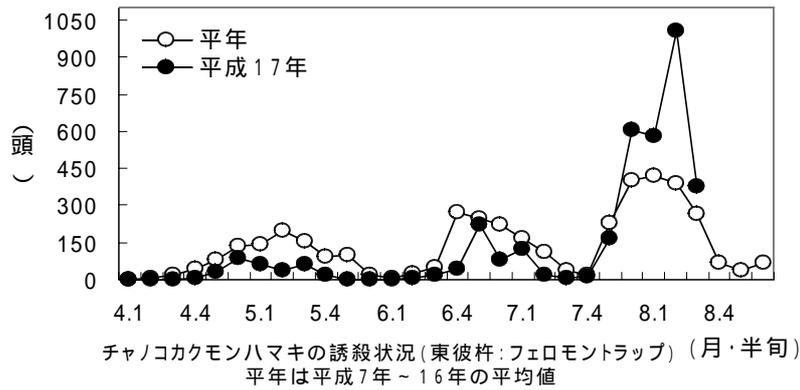
2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.3枚(0.2枚)発生圃場率は15.0%(12.7%)だった。

(2) フェロモントラップによる誘殺量は平年より多く推移している(総合農林試験場茶業支場調査、東彼杵町)(図)。

3) 防除上注意すべき事項

雌成虫の発生最盛期から7～10日後に薬剤散布すると効果が高い。



5. チャノホソガ

1) 予報内容

発生程度 やや多

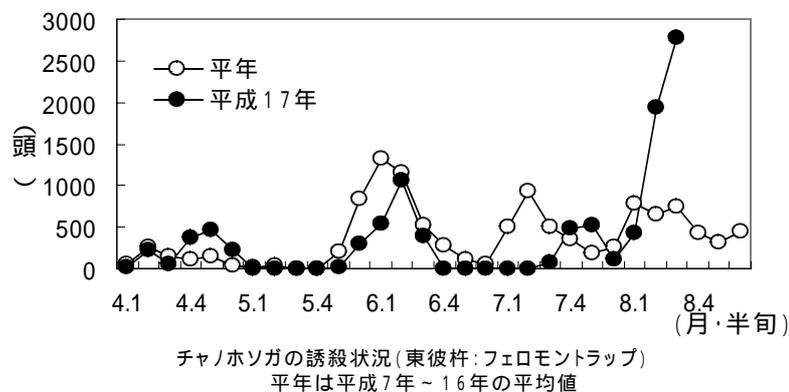
2) 予報の根拠

(1) 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.8枚)発生圃場率は5.0%(14.1%)だった。

(2) フェロモントラップによる誘殺量は平年より多く推移している(総合農林試験場茶業支場調査、東彼杵町)(図)。

3) 防除上注意すべき事項

チャノキイロアザミウマやチャノココクモンハマキとの同時防除で対応する。



6. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.2%、発生圃場率8.5%)。

7. クワシロカイガラムシ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率1.0%(6.6%)、発生圃場率は20.0%(26.6%)だった。